

「高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査(第3回)」まとまる

(公財)消費者教育支援センター(理事長・中名生 隆)と(公財)生命保険文化センター(代表理事・浅野 僚也)は第3回「高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査」を実施しました。

この調査は、2012年と2016年に実施しており、全国の高校生の消費生活と生活設計に関する実態を明らかにすると共に、学習指導要領を踏まえた学習指導、教材開発等の一助となることを目的とするものです。

《調査結果の主なポイント①》

「消費生活」に関する項目

1. 全体で9割台後半の生徒が携帯電話・スマートフォンを所持。約7割が小・中学生の頃から所持しており、低年齢化が進んでいる。携帯電話・スマートフォンの利用目的で最も多かったのは、「SNS・動画投稿サイト(LINE・Instagram・TikTok・YouTube等)」であり、男子の8割台半ば、女子の9割台半ばが回答した。(P3)
2. 授業以外の時間の過ごし方は、「SNS・動画投稿サイト(LINE・Instagram・TikTok・YouTube等)をする」が男子の6割、女子の8割と男女とも最も多く、「ゲームをする」と答えた男子も6割を超えた。「部活動をする」は男女ともに減少しており、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響がうかがえた。(P4)
3. 成年年齢引き下げについて、男子は「特に何も思わない」が最も多く約4割。女子では「消費者被害にあうかもしれないと不安を感じる」が最も多く3割強。全体の半数強が「18歳になったら選挙に行きたいと思う」と回答した。(P4, 5)
4. 「契約の知識」に関する正誤問題において、インターネットに関する項目は前回調査と比較して正答率は高くなり、学校での消費者教育の一定の成果がうかがえた。しかし、契約の基本に関する項目の正答率は2～3割弱と低く、成年年齢の引き下げに伴い消費者トラブルの深刻化が懸念される。(P5)
5. 欲しいものがあるとき参考にする情報の上位3項目は、「インターネット・SNS」「友達からの話」「家族からの話」。前回調査を比較すると「インターネット・SNS」が増加し、前回3位の「テレビ」は4位に後退した。(P6)

※本リリースは、日銀記者クラブ、文部科学省記者クラブに配布しています。

※本調査の報告書は、3月17日14:00以降に(公財)生命保険文化センターのホームページに公開いたします。

<お問い合わせ>

(公財)消費者教育支援センター

担当:庄司・奥西

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷 1-17-14 全国婦人会館 3階

☎(03)5466-7341

<お問い合わせ>

(公財)生命保険文化センター

広報活動について:生活情報室 興津・中川・長谷

調査内容について:生活情報室 前田・中川

〒100-0005

東京都千代田区丸の内 3丁目4番1号 新国際ビル 3F

☎(03)5220-8517 ホームページ <https://www.jili.or.jp/>

《調査結果の主なポイント②》

「生活設計」に関する項目

1. 将来就きたい職業を決めている高校生は6割台半ば。男子は「プログラマ・システムエンジニア」(前回3位)、女子は「看護師・歯科衛生士」(前回2位)が今回初めて最多となった。特に男子については、スマートフォンの所持率ならびに動画配信サイトの普及などにより、IT関連に関する職業への興味が上昇したことが結果の一因だったと思われる。(P7)
2. 「結婚したい」と思う高校生は前回調査と比較して減少。結婚希望年齢は平均25歳で、結婚したくない理由は「自由な時間がなくなるから」が最も多かった。また、将来「親になりたい」と思う高校生も、前回調査と比較して減少(前回調査の選択肢は「子どもを持ちたい」)。子どもの希望人数は平均2.3人で、親になりたくない理由は「面倒だから」が最も多かった。結婚したい、親になりたいと思う高校生は、前回調査と比較して減少しているが、肯定的・否定的な理由の傾向は変わらず、高校生の結婚観などについては変化がなかったと思われる。(P8)
3. 子どもが生まれた場合の働き方について、「育児休暇を取り、職場に復帰する」が前回調査と比較して、男女とも顕著に増加。昨今の特に男性の育児休暇取得率の増加といった社会環境の変化が高校生の仕事に対する意識に影響を及ぼしていると思われる。(P9)
4. 20歳より先の将来を思い描いている生徒は全体の3割弱にとどまった。「全く想像できない」という回答も約2割となり、生涯の生活設計に関する学習の難しさを裏付けた結果となった。(P9)

詳細は、次ページ以降をご参照ください

<調査要領>

- (1)調査地域 全国
 (2)調査対象 高等学校の1年生、2年生
 ※3年生の回答も含まれていたため単独で集計し、参考値として掲載している。
 (3)回収数 86校・3,125
 (4)調査時期 2021年7月

<回収サンプルの主な属性>

	1年生	2年生
学年(%)	54.3	45.7

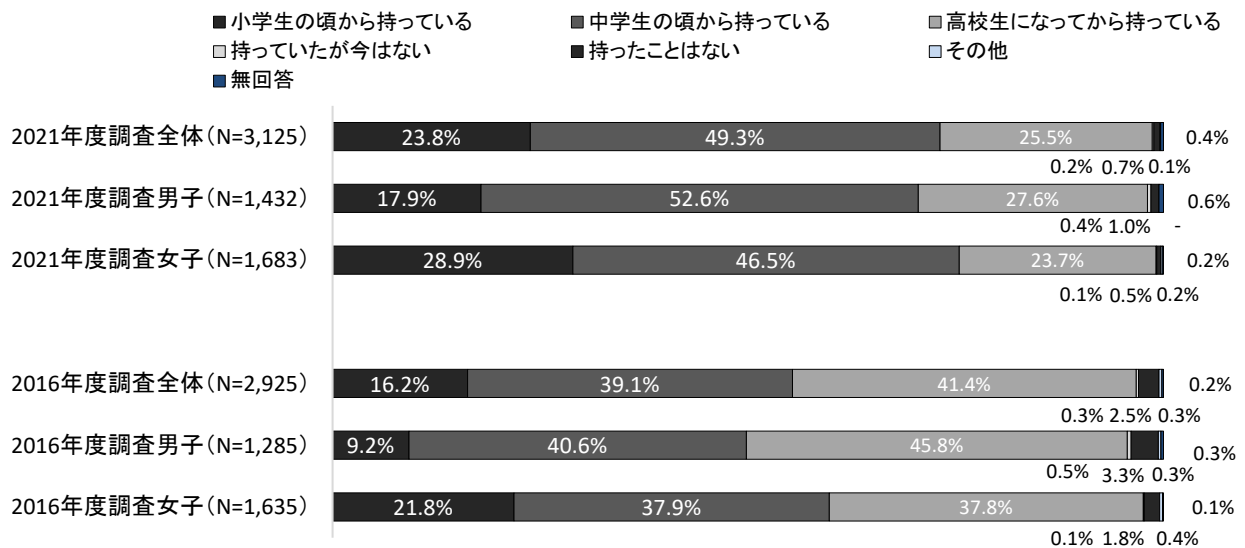
	男子	女子	回答なし
性別(%)	45.8	53.9	0.3

《主な調査結果》

「消費生活」に関する項目

1. 全体で9割後半の生徒が携帯電話・スマートフォンを所持。約7割が小・中学生の頃から所持しており、低年齢化が進んでいる。

前回調査では、全体で「高校生になってから持っている」が4割強と最も高かったが、今回調査では全体で「中学生の頃から持っている」が5割弱と最も高く、「高校生になってから持っている」が2割台半ば、「小学生の頃から持っている」が僅差で続いた。性別で見ると、女子の小学生からの所持率が高かった。

携帯電話・スマートフォンの所持<全体・性別>**携帯電話・スマートフォンの利用目的は、男子8割台半ば、女子9割台半ばが、「SNS・動画投稿サイト」。**

「SNS・動画投稿サイト (LINE・Instagram・TikTok・YouTube等)」が、男子は8割台半ば、女子は9割台半ばとなった。前回調査と選択肢の記載内容は若干異なるが(前回調査の選択肢は「SNS (Facebook・LINE・Twitter等)」)、前回調査よりさらに回答数が増加した。また、前回調査と同様、男子は「ゲーム」の割合が高く、女子は「写真 (撮影・加工)」の割合が高かった。

携帯電話・スマートフォンの利用目的(複数回答)<性別>

	男子		女子	
	2021年	2016年	2021年	2016年
1位	SNS・動画投稿サイト (LINE・Instagram・TikTok・YouTube等) (85.2%)	SNS (Facebook・LINE・Twitter等) (81.0%)	SNS・動画投稿サイト (LINE・Instagram・TikTok・YouTube等) (94.8%)	SNS (Facebook・LINE・Twitter等) (91.6%)
2位	ゲーム (85.0%)	音楽を聴く (78.4%)	写真 (撮影・加工) (86.1%)	写真を撮る・加工する (81.8%)
3位	通話 (77.6%)	ゲームをする (76.7%)	音楽 (85.5%)	音楽を聴く (80.6%)

2. 授業以外の時間の過ごし方は、「SNS・動画投稿サイトをする」「ゲームをする」「家族と話を する」で男女に差があり。

授業以外の時間の過ごし方は、「SNS・動画投稿サイト（LINE・Instagram・TikTok・YouTube 等）をする」が男女とも最も多い回答であった。前回調査と比べ「部活動をする」が減少しており、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が伺えた。男女で15ポイント以上の差がみられた項目は、「SNS・動画投稿サイトをする」「ゲームをする」「家族と話をする」であった（P.25 参照）。

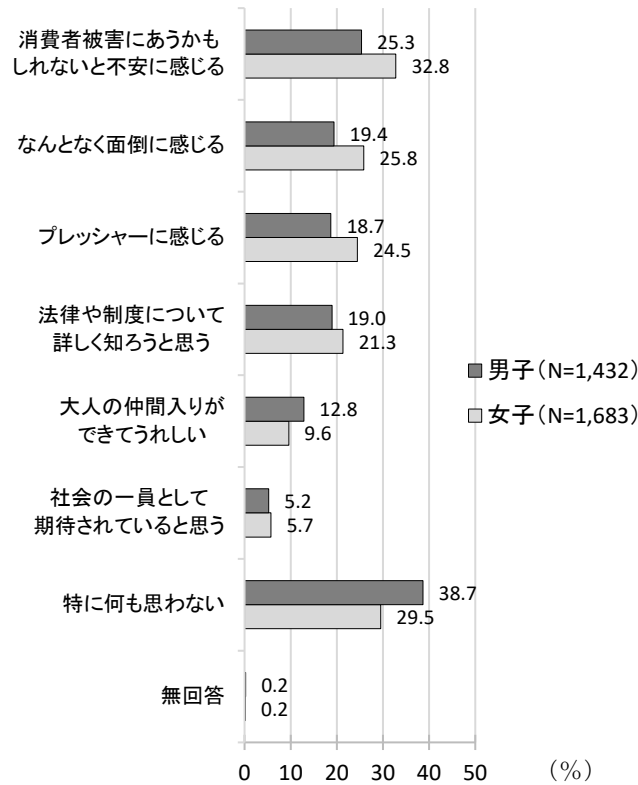
授業以外の時間の過ごし方（複数回答上位3つまで）＜性別・一部抜粋＞

	男子		女子	
	2021年	2016年	2021年	2016年
SNS・動画投稿サイトをする	62.9%		81.2%	
ゲームをする（※）	62.5% （+18.8）	43.7%	19.5% （+7.6）	11.9%
部活動をする	41.6% （▲10.5）	52.1%	33.9% （▲5.7）	39.6%
友人と話をする	22.1% （+4.7）	17.4%	32.9% （+1.9）	31.0%
家族と話をする	8.4% （+0.5）	7.9%	23.9% （+2.9）	21.0%

※「ゲームをする」は前回調査では「ゲームで遊ぶ」と表記

3. 【新規項目】成年年齢引き下げについて、「特に何も思わない」が男子で約4割、女子で3割。

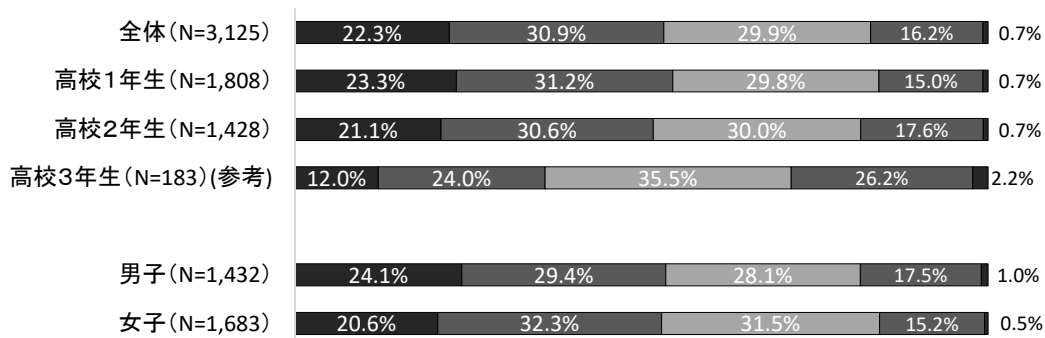
成年年齢引き下げについて、男子は「特に何も思わない」が最も多く、約4割となった。女子では「消費者被害にあうかもしれないと不安を感じる」が最も多く、3割強となった。



【新規項目】全体の半数強が「18歳になったら選挙に行きたいと思う」と回答し、残りの半数弱が選挙に行くことに対して消極的な回答であった。学年別、性別で大きな差は見られなかった。

18歳になったら選挙に行きたいと思う〈全体・学年別・性別〉

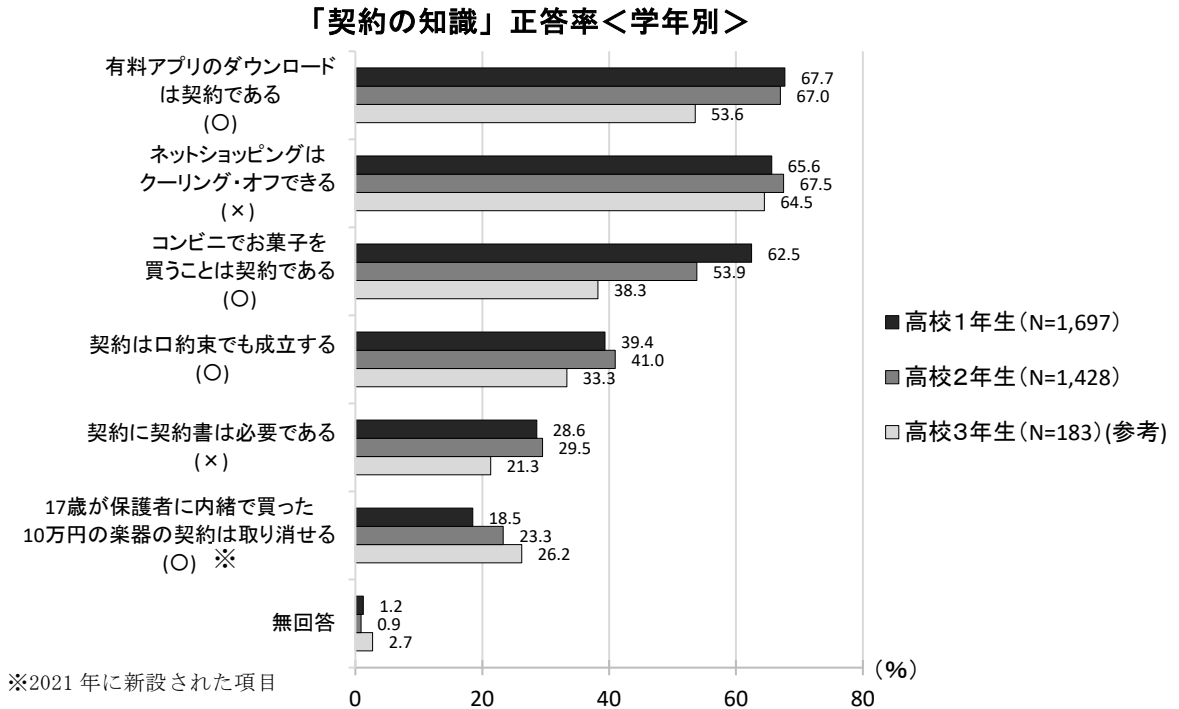
■とてもあてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない
■まったくあてはまらない ■無回答



4. 「契約の知識」に関する正誤問題において、契約の基本に関する項目の正答率は2割弱～3割弱にとどまった。

「有料アプリのダウンロードは契約である」「ネットショッピングはクーリング・オフできる」といったインターネットに関する項目は、男女ともに6割台半ば～約7割の正答率となり、前回調査と比較してすべての正誤問題で正答率は増加した。

しかし、「契約に契約書は必要である」「17歳が保護者に内緒で買った10万円の楽器の契約は取り消せる」といった契約の基本に関する項目の正答率は2割弱～3割弱と低かった。

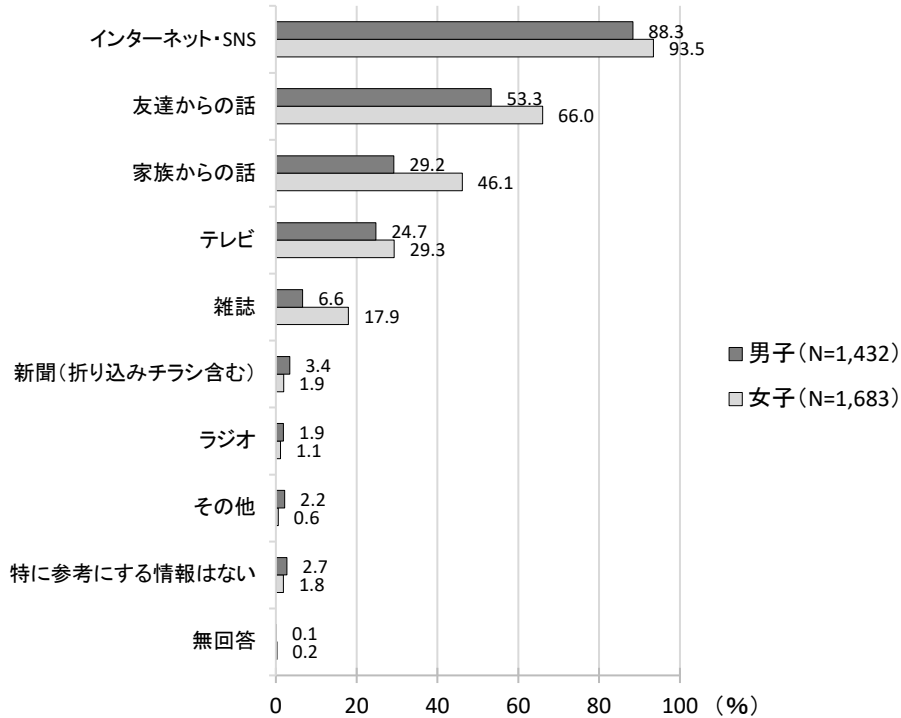


	1年生		2年生	
	2021年	2016年	2021年	2016年
有料アプリのダウンロードは契約である (○)	67.7%	60.5%	67.0%	58.7%
ネットショッピングはクーリング・オフできる (×)	65.6%	56.3%	67.5%	54.6%
コンビニでお菓子を買うことは契約である (○)	62.5%	41.3%	53.9%	33.0%
契約は口約束でも成立する (○)	39.4%	30.3%	41.0%	33.3%
契約に契約書は必要である (×)	28.6%	27.8%	29.5%	27.2%

5. 欲しいものがあるとき参考にする情報の上位3項目は、「インターネット・SNS」「友達からの話」「家族からの話」。前回3位の「テレビ」は4位に後退した。

欲しいものがあるとき参考にする情報の上位3項目は、男女ともに「インターネット・SNS」「友達からの話」「家族からの話」だった。上位項目で男女差が見られた項目は、「友達からの話」「家族からの話」であり、それぞれ女子が上回った。前回3位の「テレビ」は4位に後退した。

欲しいものがあるとき、参考にする情報(複数回答)＜性別＞



	男子		女子	
	2021年	2016年	2021年	2016年
1位	インターネット・SNS (88.3%)	インターネット・SNS (78.5%)	インターネット・SNS (93.5%)	インターネット・SNS (82.2%)
2位	友達からの話 (53.3%)	友達からの話 (54.4%)	友達からの話 (66.0%)	友達からの話 (63.6%)
3位	家族からの話 (29.2%)	テレビ (42.3%)	家族からの話 (46.1%)	テレビ (45.5%)

「生活設計」に関する項目**1. 将来就きたい職業は、男子は「プログラマ・システムエンジニア」、女子は「看護師・歯科衛生士」が最多。**

将来就きたい職業は、男子で「プログラマ・システムエンジニア」が最も多く、前回調査で最も回答が多かった「公務員（警察官を除く）」を抜いた。女子は前回調査で最も回答が多かった「保育士・幼稚園教諭」を抜いて、「看護師・歯科衛生士」が最も多かった。

将来つきたい職業＜性別＞

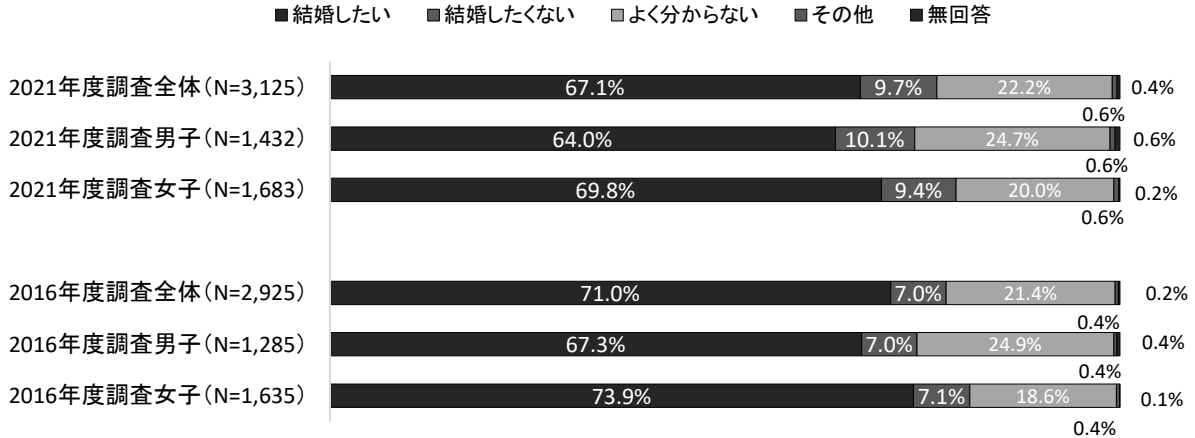
※その他を除く

	男子		女子	
	2021年	2016年	2021年	2016年
1位	プログラマ・システムエンジニア (13.9%)	公務員(警察官等を除く) (15.3%)	看護師・歯科衛生士 (25.6%)	保育士・幼稚園教諭 (20.0%)
2位	公務員(警察官等を除く) (13.4%)	技術者・整備士 (14.6%)	保育士・幼稚園教諭 (15.3%)	看護師・歯科衛生士 (15.8%)
3位	建築士・測量士・大工・左官・電気工事士 (11.1%)	プログラマ・システムエンジニア (12.9%)	調理師・栄養士 (11.2%)	接客業・営業・販売 (10.8%)

2. 「結婚したい」と思う高校生は前回調査と比較して減少。結婚希望年齢は前回調査同様、平均 25 歳。

前回同様、全体の7割弱が「結婚したい」と回答したが、「結婚したい」という回答そのものの割合は男子・女子ともに減少した。また、「結婚したくない」という回答は約1割と前回調査より増加した。前回調査と同様、男子に比べ女子の結婚願望が高い結果となった。

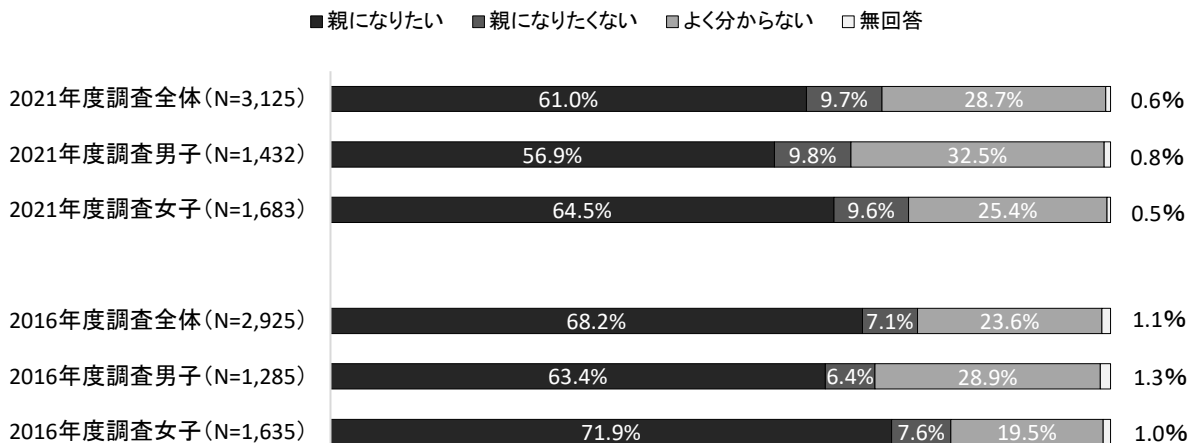
結婚願望＜全体・性別＞



将来「親になりたい」と思う高校生は、前回調査と比較して減少。子どもの希望人数は前回調査同様平均 2.3 人。

全体の6割強が将来「親になりたい」と回答したが、前回調査と比較して減少した（前回調査の選択肢は「子どもを持ちたい」）。「親になりたくない」という回答は約1割と増加した。性別では、男子に比べ女子が「親になりたい」傾向にあり、結婚願望と比例する結果となった。

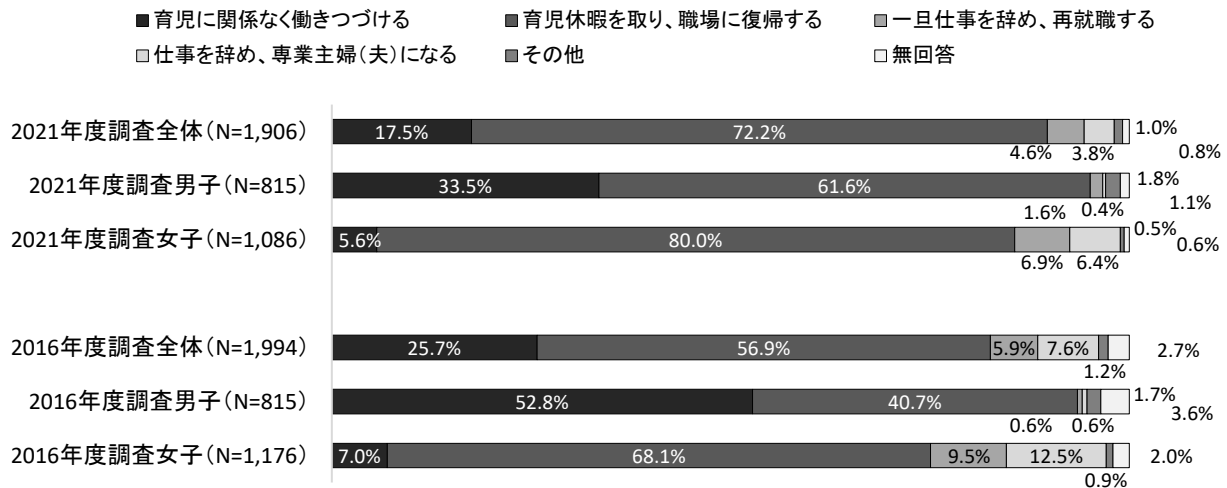
親になりたいか＜全体・性別＞



3. 子どもが生まれた場合の働き方について、「育児休暇を取り、職場に復帰する」が前回調査と比較して増加。

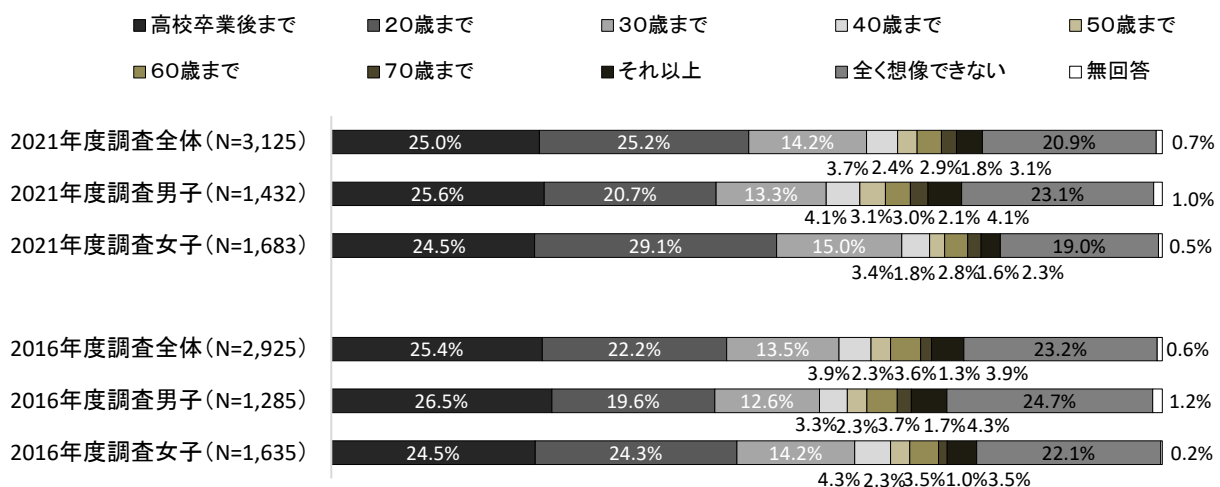
将来子どもが生まれた場合の働き方について、全体では「育児休暇を取り、職場に復帰する」が7割強と最も多く、「一旦仕事を辞め、再就職する」や「仕事を辞め、専業主婦（主夫）になる」は、1割に満たなかった。性別で見ると、「育児休暇を取り、職場に復帰する」が男子6割強、女子8割を占め男女とも最も多かった。また、前回調査と比較して男子は約21ポイント、女子も約12ポイントと増加した。

将来子どもが生まれた場合の働き方＜全体・性別＞



4. 20歳より先の将来を思い描いている生徒は前回調査同様全体の3割弱。

今からどのくらい先の生活まで思い描けるかについて、「高校卒業後まで」「20歳まで」といった近い将来について回答した生徒が約5割を占めた。また、「全く想像できない」という回答は約2割となった。前回調査と同様、10年後、20年後それ以上先の将来を思い描いている生徒は全体の3割弱にとどまった。



以上